

## 平成22年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成22年12月18日（土）午前10時～12時00分

2 開催場所 中央図書館2階視聴覚室

### 3 出席者

（委員）方波見委員長 坪井委員 橋本委員 田中委員 土久委員  
舟田委員 根津委員 軽部委員 須賀委員

（事務局）大野教育次長 森田館長 齋藤副館長 本多係長  
長田係長、森田副主査

### 4 議題

#### （1）報告事項

①平成22年度利用統計及び事業報告について（9月から11月）

②決算委員会について

③蔵書点検について

④その他

#### （2）協議事項

①資料収集について

### 5 議事の概要

①第2回図書館協議会議事録について委員長より承認の確認がされた。

②平成22年度利用統計及び事業報告（9月から11月）について事務局より報告を行った。

③決算委員会について事務局より報告を行った。

④蔵書点検について事務局より報告を行った。

⑤資料収集について協議を行った。

### 6 会議経過

①第2回図書館協議会議事録について委員長より承認の確認がされた。

②平成22年度利用統計及び事業報告（9月から11月）について事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（質問）実利用者数とは何か

（回答）4月1日より図書館で1回でも貸出を行った利用者の数である。

（質問）ハンディキャップサービス利用者において、障がい別の内訳はあるのか。高齢者も含まれるのか。千葉市では有料の宅配サービスを始めたと聞くが浦安の状況は。

(回答) 宅配利用者のうち視覚障がい者が27名、肢体不自由者21名、内部障がい2名となっており、来館の困難な高齢者もこの中に含まれる。宅配については、千葉市とは地理的条件も異なり、浦安市では職員による宅配が可能となっている。また、宅配時のカウンターワークも重視しているところである。

(意見) コンビニで貸出を始めた自治体もあるが、利用は伸びなかったと聞いている。

③決算委員会について事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は特になし

④蔵書点検について事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり

(質問) 雑誌の不明率はどのくらいの割合か。

(回答) 不明全体の1.5%程度である。

(質問) 点検時不明でも、その後発見されるものも多いのではないか。

(回答) およそ3割から5割は発見される。

(意見) 点検時の点数だけであると、誤解も受けやすい。ブックディデクションのない分館の点検結果としては不明数が少ない印象を持った。

⑤その他報告事項として平成23年自己点検評価の項目について、委員の意見を次回までに提出するよう依頼した。

⑥資料収集における、電子書籍の取り扱いについて前回に引き続き事務局より経緯説明を行ない、協議した。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 電子書籍については、流れが激しすぎて付いてゆけない。法の整備も遅れている。有料化の話も耳にするが、図書館の無料の原則が守られるのかも気になっている。図書館としてどうするのが問題である。

(意見) 電子書籍を扱っている出版社の者として報告したい。アメリカではかなり電子書籍化が進んでいるが、日本ではまだコミックの売り上げが多く、書籍の売り上げの1%程度である。CD-ROMなども含めれば10年以上前から電子書籍を扱っているが、狭義の意味の電子書籍は「Kindle」以降であり、「iPad」などが発売されて、出版社も本気になって来た部分もある。

あるベストセラーを紙の書籍の約半額で配信しているが、紙に対する影響はなかった。話題となることでどちらも売り上げの伸びにつながっている。ただ、電子書籍は出版社にとって著者と読者が中抜きで繋がる危機感がある。

現在は、フォーマットがまちまちで、書店・出版者も成り行きを見ているところである。日本の場合料金の決済方法に影響されてゆくかもしれない。著作権も実態にそぐわないところがあり問題は大きい。  
(意見) 今は、各社の規格がまちまちであり、なかなか決まらないのではないか。アメリカの動向に影響されている部分も大きい。国立国会図書館では過去の資料のデジタル化や、デジタルデータの納本について実施が決定している。鎌倉市立図書館の電子書籍の実験は、パソコンのみの対応でモバイルに対応しておらず利用が現実的ではないように思う。

書籍のデジタル化については、著作権の許諾手続きを個々の図書館が行うのは困難であり、著作権に触れない地域資料などのコンテンツの電子化などを進めたらどうか。

(意見) 電子書籍に関連し、図書館を取り巻く出版・流通業界に変革が進んでいる。図書館は図書館独自の資料・コンテンツを持つことが必要。

(意見) 電子書籍は、人気作家の作品でもあまり売れていないコンテンツがある。神戸大学では震災関係の資料の収集にあたって、市民が作った歌まで徹底的に収集し、デジタル化も進めている。独自の資料として収集していく意義は大きい。

電子書籍の今後はどうなるか見えない部分もあるが、そこにこだわっているといつまでも始められないように思う。

(回答) 見切り発車は怖いところである。電子媒体と、紙媒体のバランスを考えながら進めてゆきたい。また、ハンディキャップをお持ちの方へのサービスへの活用も検討したい。

(意見) 電子書籍が増えることは間違いない。まだ出版社も見守っているところが多いと聞く。図書館としては責任もあるだろうが、見守るばかりではなく何らかのアクションを起こして欲しい。また、液晶画面は長時間の読書には向かないので、端末機の研究も進めてもらいたい。

(意見) 図書館も避けては通れない問題である。変化は大きいだろうが、5年のうちには決まってくる部分もあるだろう。その動きの中で図書館では何ができるかを考えて欲しい。特に弱者への対応、絶版になった資料への対応など考えてもらいたい。

(意見) 浦安の図書館ではハンディキャップサービスや、地域資料のバックボーンがあるので電子化も取り組めると思う。アクションを起こしてゆくことも重要である。

(意見) 市民がどのように利用できるかが重要。高齢者への配慮を求めたい。

(意見) 浦安は商業用データベースの導入も早かったが、電子書籍についても、情報の選択肢を提供してゆくことも図書館の役割である。

(回答) 電子書籍には電子書籍としての役割もあるが、紙媒体は紙媒体での役

割もある。学校でも教科書の電子化で混乱があると聞く。図書館の、本を文化として息づかせるという重要な役割のなかで、電子書籍の役割についても考えることが必要であり、どこで舵取りをするかが課題である。

7 傍聴者 0名